

令和6年3月3日(日) 13:00 ~ 16:00

山形国際交流プラザ 山形ビッグウィング2階大会議室

【主催】 山形県・公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

【共催】 山形市・米沢市教育委員会・大江町教育委員会

令和5年度

# 山形県発掘調査速報会



# 令和5年度 山形県発掘調査速報会

主催 山形県 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター  
 共催 山形市 米沢市教育委員会 大江町教育委員会  
 日時 令和6年3月3日(日) 13:00～  
 会場 山形国際交流プラザ 山形ビッグウィング 2階大会議室

- 12:00 開場
- 13:00 開会
- 13:10 令和5年度の県内の発掘調査の概要について(山形県)
- 13:30 報告① 史跡山形城跡(山形市)
- 13:50 報告② 史跡館山城跡  
(米沢市教育委員会)
- 14:10 報告③ 新庄城二の丸跡  
(山形県埋蔵文化財センター)
- 14:30 休憩
- 14:50 報告④ 元屋敷遺跡(大江町教育委員会)
- 15:10 報告⑤ 鶴子中原遺跡  
(山形県埋蔵文化財センター)
- 15:30 報告⑥ 中洗2遺跡  
(山形県埋蔵文化財センター)
- 16:00 閉会



遺跡名	調査回数	所在地	種別	時代	調査面積	調査日程	起因事業
史跡山形城跡		山形市	城館跡	中世・近世	800㎡	5月11日～ 12月28日	史跡整備事業(文化庁補助事業)
史跡館山城跡		米沢市	城館跡	中世・近世	55㎡	8月21日～ 11月13日	保存・整備目的の内容確認調査
新庄城二の丸跡		新庄市	城館跡	近世	1,800㎡	5月15日～ 11月14日	新庄市公立保育所整備
元屋敷遺跡		大江町	集落跡	縄文・中世・近世	3,290㎡	6月12日～ 11月22日	百目木地区堤防整備に伴う移転団地造成事業
鶴子中原遺跡		尾花沢市	集落跡	縄文	190㎡	10月3日～ 11月21日	農地整備事業(経営体育成型)鶴子六沢地区
中洗2遺跡		川西町	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	2,100㎡	6月1日～ 9月22日	道路改築事業国道287号米沢川西バイパス
越中山遺跡		鶴岡市	遺物包蔵地	旧石器・縄文	19.5㎡ 61㎡	7月25日～ 30日 9月15日～ 25日	学術調査
長岡南森遺跡	第6次	南陽市	集落跡ほか	旧石器・縄文・弥生・古墳・平安・中世	225㎡	5月9日～ 7月24日	保存目的確認事業
城輪柵跡	第54次	酒田市	国府跡	平安	70.03㎡	10月16日～ 10月30日	個人住宅建設工事
北向遺跡	第4次	山形市	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	1,380㎡	4月17日～ 8月8日	交通安全道路事業(交付金・補正) 一般県道東山七浦線
豊龍館跡		朝日町	城館跡	中世	146㎡	5月18日～ 6月8日	朝日町上下水道豊龍配水池新設工事
山形城三の丸跡	第24次	山形市	城館跡 集落跡	奈良・平安・中世・近世	550㎡	6月6日～ 10月6日	山形広域都市計画道路事業3・2・5旅籠町八日町線

山形城跡本丸北堀土塁跡の調査を行った。本丸北不明門土橋地区と令和4年度の北堀北東隅部の中間に位置する地点で調査面積は約800㎡である。

令和4年度の調査でも土塁裾部には瓦捨て場を検出したが、瓦を取り上げたのちに出現したのが護岸石垣である（写真1）。高さ約60cmで川原の玉石を積み上げた簡素な構造で、背後の地山を掘りこんで据え置いたもので、堀の水面から土塁を護るための石垣である。最下段に比較的大きな石を配置し、安定性に努めていることと、自然石の平滑面を前面に置き、壁面の強度にも配慮が認められる。今年度の調査でも、北土塁裾に瓦捨て場を検出した（写真2）。多数の瓦片が折り重なるように出土した。とくにH5層と呼ぶ堀内堆積土からは完形に近い瓦がまとまって出土しており、人為的に水没する位置まで運び遺棄した様子が認められた。江戸中頃の赤瓦が2割ほど含まれるため、江戸後期に廃棄した可能性が高い。同様に、黒鯨瓦の一部破片が出土するほか秋元氏家紋の棟飾り瓦が出土している。これらの瓦は出土位置から本丸良ノ方櫓（北東隅櫓）に由来するものと考えられ、鳥居氏時代の大改修によって築か

れた二階建て建物と推察する。今年度の調査で最も驚いたことは、土塁下段に江戸時代後半と推測する補修石積みを発見したことである（写真3）。土塁は護岸石垣から傾斜をつけて立ち上がる。その傾斜よりも上位に位置するため、当初から築かれた石垣ではない。また、石積みも一部矢羽状に立てかける構造をとるなど、技術的な後退期であることを示す。これまで同種の遺構は発見されなかったため、北土塁の補修技法として取り入れられたものと解釈した。今年度調査範囲に連続して築かれたようだが、令和4年度の北東隅部では一部のみでかつ技術的には稚拙であるため、本丸北不明門に近い範囲で入念な施工を行ったことがわかる。（五十嵐貴久）



写真2 本丸北土塁裾瓦捨て場遺物出土状況



写真1 本丸北土塁裾護岸石垣検出状況（北東から）



写真3 本丸北土塁補修石積みの発見状況（北西から）

史跡館山城跡は、米沢市西部の大字口田沢・館山地内の丘陵上に築城された山城と、それに伴う東館・北館と呼ぶ山麓居館（根小屋）で構成される中世～近世初期の城館跡である。平成28年3月1日付けで国の史跡となったが、緊急発掘調査への対応で事業を一時休止しており、令和2年度から発掘調査を再開している。

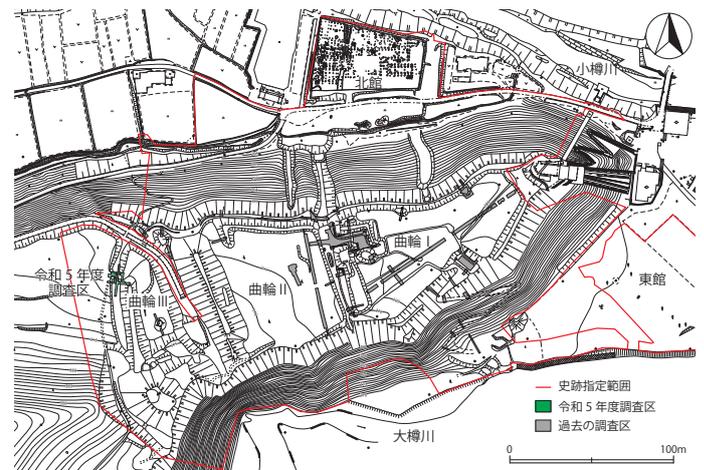
今年度は、山城の西側に位置する曲輪Ⅲ北西部の虎口周辺の調査を実施した。ここでは曲輪Ⅲ北～西側を隔する堀切が途切れて土橋状の遺構が確認されることから、この遺構の構造や構築時期を確認することを目的とし、合わせて西側の土塁も調査を行った。

土橋状遺構は、旧表土及び地山を削り出して構築しており、長さは5.6～8.3m、上幅約2m、下幅約3.5mで、北側は高さ約0.95～1.2mの段となるが、北西部はカクランを受けて高さは10cm程度しか確認されなかった。土橋状遺構の断面形は、北・南側共に深い堀を伴うことで馬の背状になると想定していたが、南側は浅くわずかに段が付くものであった。土橋状遺構は曲輪Ⅲの虎口への導線であると共に、北側は高い段を設けて堀底道からの侵入を防ぐ障壁としての機能があった

と考えられる。また、北側堀切の堆積土には、ブロック状の地山土や泥岩を多量に含む人為的な埋戻し土が確認された。これは段を緩傾斜にし、障壁としての機能を失わせる破城（城割り）が行われたことを示す土層と考えている。

土塁は、調査箇所での高さは約2.8mで、旧表土上面に黒色土・黄褐色土を積む状況が確認された。

遺物は中世の内耳土鍋片が出土し、曲輪Ⅲがこの時期から機能していた可能性が高まった。また、近世前期の岸窯系の火入れ片が出土しており、廃城後にも利用があったことを窺わせる。  
（佐藤公保）



史跡館山城跡調査区配置図



令和5年度調査区全景（北西から）



土塁の構築状況（西から）

新庄城は、元和8年（1622年）に新庄藩の初代藩主となった戸沢政盛とざわまさもりにより築城され、寛永2年（1625年）頃に完成したと伝えられる。二代藩主の正誠まさのぶは二の丸の拡張・整備を行い米蔵が建てられた。新庄は江戸時代を通じて城下町として栄えたが、戊辰戦争ぼしんで慶応4年（1868年）に城は焼失した。明治以降、二の丸跡は学校敷地となり、現在は公園である。発掘調査は、新庄市公立保育所整備事業により1,800㎡について実施された。

調査では3面の遺構面を確認した。第1面は戊辰戦争で火災となった後に整地された明治以降の面で、新庄北高校の校舎基礎や米蔵に由来する炭化米を多く含む層が確認された。

その下の第2面は、二の丸内の米蔵があった幕末頃の面である。遺構は焼土遺構、溝跡、建物の礎石や柱穴、土坑などがある。焼土遺構は、戊辰戦争の火災の跡で、覆土に炭化材や炭化米を含む。また、瓦が大量に廃棄された瓦廃棄地点が3ヶ所以上確認された。北側の1区では建物の礎石や柱穴群が検出された。大型の礎石は直径が50cm以上で、1区に4基確認され、そのうち3基は直線状に配される。火災による被熱の痕が残る。攪乱で失われた礎石もあり建物規模は明確ではないが、米蔵の礎石に該当すると考えられる。

その下の第3面では、二の丸が整備される前の遺構と、その後整地が行われた状況が確認された。調査区西側では落ち込む地形が確認され、大量の瓦と土砂を入れ整地が行われていた。3区東側では、南北に延びる溝状の落ち込みや土坑、柱穴などが確認された。これらの遺構は二代藩主の二の丸の整備に伴い埋められ整地されたと推測される。

江戸時代の出土遺物は、瓦が最も多い。黒色の丸瓦と平瓦が主で、鯨瓦しやちがわら・鬼瓦も出土した。陶磁器は、九州の伊万里焼いまりやき、唐津焼からつやきが中心で、瀬戸・美濃産の陶磁器も少量伴う。その他、金属製品として、釘、鉄砲の鉛玉かんえいつうぼう、寛永通宝すずりや一分金などの貨幣、石製品として砥石や硯などが出土した。遺構に伴わないが、少量の中世陶磁器も出土した。（菅原哲文）



火災により表面に焼けた痕が残る大型の礎石



廃棄された瓦。軒丸瓦には戸沢家の家紋「丸に九曜」が入る。



焼土遺構と江戸時代の礎石（写真中央）。礎が入る遺構は近代以降。

元屋敷遺跡は左沢楯山城跡の麓に位置する。左沢楯山城は14世紀後半に寒河江大江氏の一族左沢元時により築城された。天正12年（1584）最上義光の寒河江攻略により大江氏が滅亡すると最上氏の支配下に置かれた。元和8年（1622）最上氏が改易となって酒井直次による左沢藩が成立し、小漆川に新しく城が築かれて左沢楯山城は廃城となった。

元屋敷には、左沢楯山城の居館や関連する集落があったと考えられてきた。令和4年の試掘調査では、柱穴跡や溝跡と、16世紀末から17世紀前半の志野や肥前の皿、中国産の陶器片などが見付き、令和5年、住宅団地造成に伴う発掘調査を行うことになった。調査は大江町教育委員会指導のもと、町が株式会社三協技術に委託をして実施した。

調査では、多数の柱穴跡や9基の井戸跡、大型の土坑跡、溝跡などが見つかった。重複する柱穴跡もあり、建て替えを行いながら掘立柱建物が複数建てられていたことが分かる。それらとともに、石組みの井戸などが見つかり、人が住んでいたことがうかがわれる。井戸跡からは埴塙や取鍋とみられる破片が見つかった。今回では鍛冶跡などは確認されなかったが、周辺に工房などがあったかもしれない。



令和5年度調査区中央部（柱穴跡と井戸跡、大型の溝状遺構）

い。井戸跡のなかには、大型の石が足場状に配されたものと排水路とみられる溝跡を伴うものもあった。

蛇行する大型の溝状遺構も確認された。下流側は幅が広がり深さが2m以上あることから、用途の検討が課題となっている。

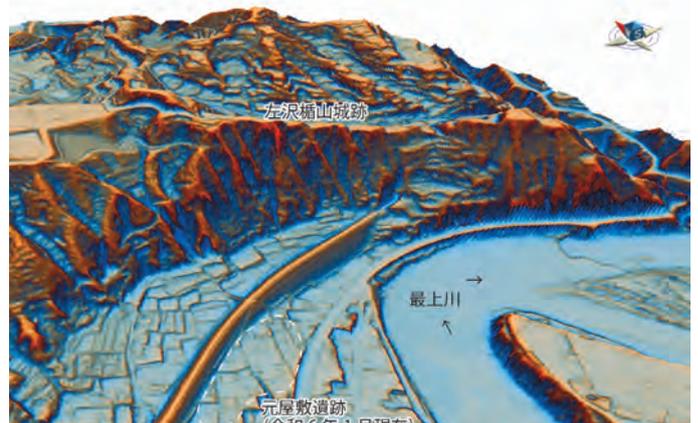
左沢楯山城が機能した時代の遺物は、16世紀から17世紀前半の肥前や瀬戸美濃産の皿や中国産の磁器片などが出土した。なお、寛永通宝・永楽通宝や硯、縄文時代の石器や古代の須恵器なども見ついている。

以上のような成果より、元屋敷遺跡は、大江氏や最上氏時代の左沢楯山城麓の集落跡とみられる。今後、遺構や遺物の精査を通して、建物の配置や町割り、居住者の性格や当地の機能について検討を進めることが課題である。

（水戸部泰子）



階段状に並べられた石と水路状遺構を伴う井戸跡



左沢楯山城跡と元屋敷遺跡

# つるこなかはら 鶴子中原遺跡

一県内では数少ない縄文時代  
早期の森に囲まれた集落跡一

尾花沢市

鶴子中原遺跡は、農地整備事業の用排水路工事に伴う調査で、昨年度の原の内A遺跡第4次調査（縄文時代中期）南側の一段低い河岸段丘上に立地する。なお、当遺跡の遺構検出面（地山）の一部は、現在市内では不明瞭な大蔵村肘折火山由来の火山灰（縄文時代早期前葉：約10,000年前噴出）で形成される。

調査では、現丹生川に近い調査区東半部～中央部にかけて直径約1m前後のゴミ捨て穴と考えられる土坑や、柱穴の可能性のあるピットが発見された。他に、直径・深さとも約1.5m前後の大型の風倒木痕からは、県内で数少ない縄文時代早期の土器が一定量出土した。

これら土器は、貝殻の腹縁を押しあて鋸歯状や矢羽根状文様を施す「貝殻沈線文系土器」や、腹縁を押し引いた「貝殻条痕文系土器」などの縄文時代早期中～後葉（約8,000～7,000年前）のものが認められる。

石器類では、狩猟具の根元が抉れる石鏃（矢尻）や加工用ナイフの石ベラ、木の伐採具の磨製石斧、堅果類の粉碎具である凹石、磨石が出土した。特に凹石は、狭小な調査区から楕円形や細長形の多様な形のものが20点以上発見された。他に石器を作出する際の欠片の剥片や石器素材の石核も出土した。

今回の調査では、地山の一部が肘折火山灰

で形成されており、遺構の構築年代の下限や、遺跡の立地地形の成因で注目される。

当地は、その後火山灰で覆われた厳しい環境を脱し、県内で数少ない縄文時代早期中葉～後葉の集落が営まれる。当該期は、貝殻文様を施した土器や狩猟具の石鏃などが出土し、特に磨製石斧や凹石を使用した豊かな森資源を利用した生活がうかがえる。また石器製作時の剥片や凹石の多さから、長期間に渡り断続的に営まれた集落跡が推測される。

なお、調査区は風倒木の痕跡が10基以上確認され、周辺を森に囲まれた「村の境界域」と考えられる。今調査区に北接し、多量の土器や石器、土偶が出土した原の内A遺跡（約5,000年前）は、この森を伐採・活用し、集落が大規模化したと思われる。（植松暁彦）



SX3 風倒木の遺物出土状況（北から）



SX3 出土の貝殻沈線文系土器（縄文時代早期中葉）



調査区近景(東から。手前が大型SX1～3風倒木痕)

中洗2遺跡は、一般国道287号米沢川西バイパスの建設工事に先立ち、県が実施した分布調査で発見された。今回の調査は、事業区にかかる2,100㎡が対象となった。

遺跡は圃場整備により削平をうけていたが、残存状況は良好で、縄文時代、古墳時代、奈良時代、近世の遺構や遺物を確認することができた。

縄文時代については、明確な遺構を確認出来なかったが、土器片や石器、フレイクなどの遺物が出土した。古墳時代については、後期と考えられる5軒の竪穴建物跡と溝跡などが検出された。特に、一辺8mほどある大型のST1竪穴建物跡は、周囲に周溝をめぐるなど特異な形態をしている。ほぼ同時期のSD9溝跡からは多くの土師器が出土した。調査区を斜めに横断する幅4mほどのSD11溝跡からは、土師器片が出土している。他に、掘立柱建物跡も3棟検出された。また、近世の溝跡も確認された。

(齋藤健)



ST1 竪穴建物跡とSD2 周溝完掘状況（上が北）



SD9 溝跡完掘状況（上が北）



調査区全景（東から）

越中山遺跡は鶴岡市（旧朝日村）を流れる赤川の河岸段丘、標高 100～105 m の大鳥苗畑面と標高 125～130 m の越中山開拓地面に広がる。過去には、山形大学などで教鞭をとられた故・加藤稔氏を中心として、1958～83年に発掘調査が実施されていた。調査の結果、後期旧石器を中心とする資料が得られている。特に1958～61年の調査は、東北地方において初めて行われた旧石器時代遺跡の発掘調査として知られる。

新潟大学・東北大学を中心として組織した越中山遺跡遺跡調査団では、遺物分布状況の把握やより詳細な情報を得ることを目的として、40年振りとなる本遺跡の発掘調査を開始した。初年度となる2023年度は大鳥苗畑面を対象として7月に試掘調査を実施し、その成果を踏まえて9月に本調査を行うこととした。試掘調査では1～5 m<sup>2</sup>の調査区7か所を調査した。このうち表土以下で石器が出土したのは2か所（TP01・TP03）に留まり、本調査では前述の調査区2か所を拡張し、追加でTP08を設定して調査した。ここでは、主にTP01で出土した石器について紹介する。

TP01では後期旧石器時代終末期の細石刃を中心とする石器群が出土した。細石刃はカミソリの刃のように小さな石器で、動物の角な

どで作った軸にはめ込んで槍先の刃として使われたと考えられている。今回出土した細石刃は幅1 cmと極めて小さく、製作時に擦られた痕跡がみられることが特徴である。また、主に黒曜石が素材となっている。このような細石刃を製作する技術（湧別技法白滝型）は後期旧石器時代終末期の北海道で発生し、津軽海峡を越えて本州へ南下したのと考えられている。同様の細石刃が本州において発掘調査で確認されたのはこれまで5例のみで、本資料が6例目となる。本遺跡では1967年に関連資料が採集されていたが、今回の発掘調査によってより確実なものとなった。

このほか、TP03では後期旧石器時代中頃のナイフ形石器を中心とする石器群（東山石器群）が出土し、TP08でもナイフ形石器が出土した。出土遺物・試料の分析を進めるとともに、継続した調査を行っていきたいと考えている。（青木要祐）



TP01 出土の  
黒曜石製細石刃



TP03 の石器出土状況（エンド・スクレイパー）



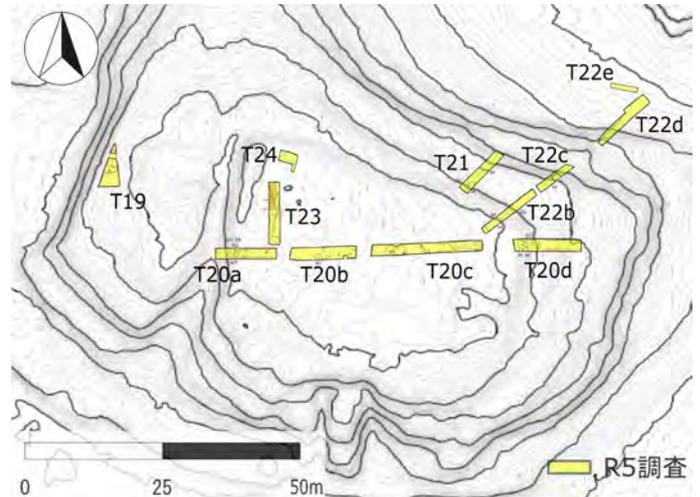
遺跡遠景（北から。大場正善氏提供写真をもとに作成）

長岡南森遺跡は南陽市長岡地区の南森丘陵に立地する。遺跡保護と実態解明のため、平成30年度から確認調査を実施し、これまでの調査の結果から、当初想定された大型古墳ではなく古墳時代の集落跡であることが判明した。第6次調査となる今年度は丘陵南半の頂部を中心に調査を行った。

丘陵頂部で古墳時代の<sup>たてあな</sup>竪穴住居跡を5棟(2～6号住居)検出した。2号住居跡はT19で検出し、床面に砥石や作業痕のある<sup>れき</sup>礫等が置かれていた。3号住居跡はT20cとT22bで検出した。ベット状遺構を有し、一辺約6.8mと比較的大きい。4号、5号住居跡はT20cで検出した。遺構の切り合いから4号住居跡が先行するとみられる。6号住居跡はT20a、T23で検出、ベット状遺構を有する。

頂部を横断するT20a～T20dのうちT20bでは竪穴住居は確認されず柱穴群を検出した。T20a、T20d、T22bの頂部肩で<sup>さくれつ</sup>柵列跡、T20aの頂部肩で<sup>どるいじょうもりど</sup>土塁状盛土遺構を検出した。T20aの柵列跡と土塁状盛土遺構は他の遺構との切り合いから古墳時代前期を下らない時期の遺構とみられる。

T20d、T21、T22bの頂部斜面裾に時代は不明だが横溝が巡ることが確認され、T22d



長岡南森遺跡調査区・遺構位置図  
今年度はT19～T24(調査区)を調査した

では山裾で古墳時代の<sup>すえき</sup>大溝を検出した。

T20aで1基、T23で2基の土坑、T20aとT23で頂部を南北に区切り6号住居跡を切る溝跡を検出した。溝は掘り直され、新しい溝跡からは古代の須恵器が出土する。

遺物は各竪穴住居跡から古墳時代の<sup>はじ</sup>土師器、T22dから縄文時代の<sup>ゆうこう</sup>有溝砥石や<sup>いし</sup>尖底土器が出土した。頂部の集落を中心に土塁状盛土遺構、柵列跡、テラス、大溝等の遺構が見られ、遺物からは祭祀や生産活動がうかがえる。<sup>いなりもり</sup>稻荷森古墳との関連が想定される遺跡であり古墳時代の<sup>ごうぞくきよかん</sup>豪族居館の可能性について今後調査を進める予定である。(齊藤紘輝)



T20c、T22bの3号竪穴住居跡  
T20c(写真左)住居内でベット状遺構を検出した



T20aの盛土遺構・柵列と盛土上から掘り込む古墳時代前期の土坑

城輪柵跡は、平安時代の役所である出羽国府と考えられる遺跡で、昭和7年、国史跡に指定された。第54次調査は、個人住宅の建設工事に伴い実施された。調査地点は、遺跡中心部にある政庁に近接しており、遺跡の中でも重要な場所である可能性が高いと想定された。調査では、表土を取り除いて掘り下げていくと江戸時代に盛土し整地した跡が見つかった。盛土層からは江戸時代（18世紀）の陶磁器と共に平安時代の遺物も出土し、その中には過去の発掘調査で、政庁から出土したものと同一文様を持つ瓦や「上一」という文字が彫られた平安時代の瓦が見つかった。江戸時代の盛土層を掘り下げると、複数の倒木痕が見つかった。また地下水位が高く水が

たくさん湧いており、当初予想した出羽国府に関係する遺構は見つからなかった。そのため、平安時代に建物は存在せず草木が生い茂る湿潤な土地だったと考えられる。その後、江戸時代になり住宅を建てるため土を盛って造成したのだろう。盛土するための土は、おそらく政庁があった場所から運ばれてきた土を使用しており、その土中に平安時代の遺物が混入していたと推測される。今回の調査で、第54次調査地点周辺は国府が存在した時点では、役所の施設や役人が住むような建物はないエリアであることがわかった。城輪柵跡の中心部である政庁にとっても近い場所であっても、このような空間が存在していたことが明らかとなった。  
(渡部裕司)



調査地点と城輪柵跡全体図



第54次調査地点全景



江戸時代の陶磁器出土状況



江戸時代の盛土層から出土した平安時代の瓦片

北向遺跡は、JR 仙山線楯山駅の西、楯山小学校の南に展開する集落遺跡である。本遺跡は立谷川などがつくりだした扇状地の末端に位置し、これまでに県道や市道の建設に伴い発掘調査が行われてきた。調査は扇状地を下るように西へ西へと進められ、今回の県道の建設に伴い昨年度に実施した第3次調査に続き、道路の延長線上の西側を調査した。

今回の調査区では、奈良・平安時代の住居と考えられる竪穴建物跡が5棟発見されている。北向遺跡のこれまでの調査でも同じ時代の建物は多数確認されており、一定の規模をもつ集落が広がっていたと推測される。今回の出土品に関しては今後の整理作業を待たねばならないが、これまでの調査では特定の身分や役職を示すものや高級品などはほとんどみられないことから、庶民的なムラといえるだろう。山形市北部では奈良・平安時代から遺跡数が急増することから、この地域では盛んに開発が行われたことがうかがえる。本遺跡もその結果のひとつといえよう。

また、これまでの調査ではほとんどみられなかった、奈良・平安時代よりも古い、縄文時代や古墳時代のものがまとまって出土した。これらの時代の建物跡は発見されなかったが、土器だけが残されていた。縄文時代のものは、

同時代の終わり頃の土器（大洞 A 式、2500 年前ごろ）がいくつか出土している。古墳時代のものは、中期（5 世紀ごろ）の土器が複数個体出土している。これらの土器は、奈良・平安時代のものと一緒に、河川跡の堆積層の中から出土している。現在は影も形もないこの河川跡は、村山高瀬川の支流と呼べるもので、平安時代ごろまでは流れていたものと考えられる。時代をまたいだ出土遺物は、度々洪水を引き起こし、川岸の家屋を飲み込んだ結果なのかもしれない。

これらの土器の出土する層より 10 数 cm 上には、墓（火葬墓）や建物の柱穴が見つかる。これらは鎌倉・室町時代のもので、このころには、この河川もほとんど埋没し、現在に近い地形になっていたと考えられる。（天本昌希）



遺跡全景



奈良・平安時代の建物跡の調査風景



縄文土器（左）と古墳時代の土器（右）

豊龍館跡は、朝日町大字宮宿にある役場の北方約1km、最上川右岸にある独立した丘陵上に位置している。平地からの比高は30m程、頂部は平坦で、標高188m前後を測る。

戦国時代には、鳥屋カ森城主であった岸美<sup>とやがもり</sup>作守義満<sup>さかのかみよしみつ</sup>の支城となった。丘陵南入り口の豊龍神社の境内には、創建時に植えられた樹齢千年と伝わる大杉（県指定天然記念物）がそびえている。また、現在の貯水槽建設の時、12世紀末の製作とみられる町指定文化財の叩壺<sup>たたきつぼ</sup>（蔵骨器<sup>ぞうこつぎ</sup>）が出土した。太平洋戦争後

は左沢高校朝日分校の敷地となり、現在は公園として整備されている。

今回の調査は、貯水槽の南東に隣接して、もう1棟貯水槽を設置することに先立ち、146㎡を対象として、5月18日から6月8日の日程で実施した。

その結果、土坑5基と2条ずつ直交する溝跡などが検出された。これらは、いずれも朝日分校の施設に関連する遺構とみられる。今回の調査区域内では、中世居館の時期に関わる遺構や遺物を確認することはできなかった。（山崎真裕）



叩壺（蔵骨器）



豊龍館跡近景（北西から）。頂上に見える貯水槽のすぐ奥が今回の調査区。



調査状況（西から）



C区北の西側で発見された堅穴建物跡（上が東）

山形城三の丸跡は、最上義光が整備拡張した近世城郭山形城の一部にあたる。今回の調査は一昨年と昨年に続いて都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線に伴う調査である。調査区は三の丸跡の出入口の一つである横町口の近辺にあたる。この周辺は幕府直轄領となった1764年から武家屋敷の取り壊しが行われており1767年に秋元氏が入封した段階では畑になっていたと言われている。秋元氏は横町口に至る通りに中級家臣の長屋を建造したといわれている。今回の調査区の一部は長屋が建造された通りに比較的近い場所である。

調査区からは江戸時代と奈良・平安時代の遺構・遺物が確認された。この結果は、過去2年行った調査とほぼ同様のものである。近世の遺構は出土遺物から江戸時代前半期のものが多くその種類は、土坑や溝跡、石組み遺構などである。その中でも形が不定形で範囲が5m以上、深さ80cm程の遺構から「かわらけ」が多く出土した。ほとんどが口縁部に煤すすを付着した状態であったことから灯かりをともしとうみょうざら燈明皿として使用されたものとみられる。遺構の使用用途は今後の検討課題であるが、この遺構を埋める際に「かわらけ」も捨てられたといえる。この遺構からは江戸時代初期に焼かれた九州地方の焼き物も出土している。江戸

時代後半期のものは遺構・遺物ともに少なく、土坑が確認できる程度である。これは幕府直轄領となった時期を挟んだ土地利用の状況が現れているとみられ、近代になるまで大規模な開発行為は行われていなかったとみられる。

奈良・平安時代ではピットや溝跡、掘立柱建物を検出した。竪穴建物は検出されていない。珍しい遺物として溝跡から取っ手がついた須恵器の鉢すえきが出土している。掘立柱建物は2間×1間以上の大きさと柱が外側のみに周る側柱建物がわばしらである。建物は調査区外に延びており、全体の大きさは不明である。柱穴は円形で建物の四隅に位置する穴が少し大きく掘られている。またこの建物は昨年検出した竪穴建物と向きがほぼ揃っており、同時期の建物と考えることができる。  
(渡辺和行)



近世の大型遺構（南西から）。ここから「かわらけ」が出土している。



出土した「かわらけ」。口縁に煤などが付着している



奈良・平安時代の掘立柱建物跡（北から）



# 山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	県内の主な遺跡 ●●：令和5年度発表遺跡(主要な時代を示します)		山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代	● 越中山 (鶴岡市) 清水西 (村山市) 水林下 (遊佐町) 上屋地 (飯豊町)	太郎水野 (金山町) お仲間林 (西川町) 金谷原 (寒河江市) 角仁山 (大石田町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	章創期	日向洞窟 (高畠町) 火箱岩洞窟 (高畠町) 大立洞窟 (高畠町)		隆起線土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	農耕牧畜が起る
		早期	にひやく寺 (山形市) 月ノ木B (南陽市)	いるかい (尾花沢市) 赤石 (村山市)	竪穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュヨク成立(約6000年)
		前期	高瀬山 (寒河江市) 柳山 (高畠町)	小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる	関東地方に貝塚があらわれる
		中期	● 鶴子中原 (尾花沢市) 原の内A (尾花沢市) 西ノ前 (舟形町) 水木田 (最上町) 小反 (鮭川村)	中川原C (新庄市) 西海測 (村山市) 熊ノ前 (山形市) 西向 (鶴岡市) 山居 (西川町)	計画的な大集落があらわれる	三内丸山遺跡が繁栄する	どうもこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)
		後期	川口 (村山市) 小山崎 (遊佐町) かつば (最上町)	砂子田 (天童市) 蕨台 (酒田市) 町下 (飯豊町)	竪穴住居に複式炉が作られる	環状集落が発達する	
		晚期	杉沢C (遊佐町) 作野 (村山市) 玉川 (鶴岡市) 宮の前 (村山市)	釜淵C (真室川町) 北柳1 (山形市) 下叶水 (小国町) 蟹沢 (東根市)	中国製青銅刀がもたらされる	配石遺構がさかんに作られる	模形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2850年) インダス文明がおこる(約2500年) 殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
AD1年 300年	弥生時代	百刈田 (南陽市) 上竹野 (大蔵村)	生石2 (酒田市) 堂森 (米沢市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展	光武帝が奴國に 金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏蜀蜀三國時代(220年)	
	古墳時代	● 中洗2 (川西町) ● 長岡南森 (南陽市) 川前2 (山形市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南原 (高畠町) 廻り屋 (白鷹町) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋 (川西町) 板橋2 (天童市)	比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳 (山形市) 土矢倉古墳 (上山市) 服部・藤治屋敷 (山形市) 高揃南 (天童市) 嶋 (山形市) 馬洗場B (山形市)	鉄製農具がつかわれた 県内最大の前方後円墳がつけられる 東北最大の円墳がつけられる	前方後円墳がつけられる 大和の土師器が全国に広がる	ゲルマン民族大移動(375年) 南北朝時代(439年)	
600年 700年 800年	飛鳥時代	大在家 (高畠町) 安久津古墳群 (高畠町)	羽山古墳 (高畠町) 双葉町 (山形市)	湯殿山開山(605) 出羽郡が建郡される(708年) 出羽郡が設けられる(709年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平城京に都をつつす(710年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年)	
	奈良時代	二色根古墳 (南陽市) 双葉町 (山形市) 壇山古窯跡群 (川西町)	牛森古墳 (米沢市) 大和田窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市)	出羽郡が建国される(712年) 出羽郡が秋田村高清水岡に移転する(733年)	東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をつつす(784年) 平安京に都をつつす(794年)	李白・杜甫・楊貴妃らが活躍	
	平安時代	● 城輪柵跡 (酒田市) ● 北向 (山形市) 馳上 (米沢市) 山田 (鶴岡市) 小松原窯 (山形市) 平野山古窯群 (寒河江市) 道伝 (川西町) 堂の前 (酒田市) 大浦B (米沢市) 上高田 (遊佐町) 古志田東 (米沢市) 今塚 (山形市) 的場 (天童市) 清水 (村山市) 八反 (東根市)	駒籠柵跡 (大石田町) 徳田 (酒田市) 八森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 大坪 (遊佐町) 下長橋 (遊佐町) 興野川原 (鶴岡市) 行司免 (鶴岡市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・畑ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三条 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 三本木窯 (山形市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年)	坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる(918年)	
1200年 1400年 1500年	鎌倉時代	上の寺 (寒河江市) 大樞 (遊佐町) 執行坂窯 (鶴岡市) 八幡一 (川西町)	長表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市)	斯波兼頼が山形へ入部(1356年)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)	
	室町時代	柳沢A (鶴岡市) 小田島城 (東根市) 上野 (鮭川村) 藤島城 (鶴岡市)	高松II (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町) 館山北館 (米沢市)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年) 義光の娘・駒姫処刑される(1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)	
1600年	安土・桃山時代	● 山形城 (山形市) ● 館山城 (米沢市) ● 元屋敷 (大江町) ● 豊龍館跡 (朝日町)	左沢橋山城 (大江町) 天童古城 (天童市) 亀ヶ崎城 (酒田市) 谷地城 (河北町)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	東印度会社設立(1602年)	
	江戸時代	● 新庄城二の丸 (新庄市) ● 山形城三の丸 (山形市) 慈恩寺旧境内 (寒河江市) 上本町 (酒田市) 米沢城 (米沢市)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 三条 (寒河江市) 南台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 坂ノ上 (山形市)	上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年)		清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位(1804年) リンカーンが活躍(1861年)	

